

「チャレンジウィンターキャンプ in ASO」事業報告書

事業推進室長 小宮 広明

1 事業の概要

- (1) 趣 旨 子供たちがたくましく生きる力をはぐくむために、自然体験や調理体験などの多様な体験をさせるとともに、集団宿泊体験を通して、規則正しい生活習慣や自立する力を身につけさせる。
- (2) 期 日 平成 29 年 1 月 21 日(土)～22 日(日) 1泊2日
- (3) 活動場所 国立阿蘇青少年交流の家
九重森林公園スキー場
- (4) 参加者 50 名(児童養護施設入所している幼児・児童・生徒 39 名、施設職員 11 名)
- (5) 講 師 薄井 良文 氏(研修指導員) 藤原 孝誠 氏(研修指導員)
藤原 美里 氏(研修指導員) 伊志嶺朝紀 氏(研修指導員)
長尾 武彦 氏(スキー指導講師) 薄 井 岳 氏(スキー指導講師)
- (6) 担当職員 小宮 広明(事業推進室長) 安部 信吾(企画指導専門職)
松元 延行(事業推進専門職) 宇戸口 健(事業支援室係員)
- (7) 内 容
【1日目】 ・スキー体験、そり遊び
【2日目】 ・調理体験

2 成果と課題

- (1) 成 果
 - 「チャレンジウィンターキャンプのおかげで、めったにできないスキーができて嬉しかったです。」「スキーは初めての体験だったけど、スキーの先生の話聞いてコツをつかめて滑れるようになったので楽しかったです。」などの感想が多数みられ、スキー体験や雪遊びが参加者にとって印象に残る体験だったとともに、スキーの指導者やボランティアの力を借りながらスキーが上達したという達成感を味わわせることができた。
 - スキー体験においては、指導に当たる研修指導員との打合せを入念に行い、安全の確保とともに発達段階に応じた指導方法の工夫や班編成を行うことができた。
 - 調理体験では、早寝早起き朝ごはん全国協議会が発行する「朝ごはんポケットレシピ」を活用した活動ができた。「朝ごはんポケットレシピ」の活用にあたっては、当交流の家レストラン栄養士の協力を得ることができ、栄養のバランスだけでなく調理することの楽しさを伝えるプログラムにすることができた。
- (2) 課 題
 - 熊本地震の影響で、3泊4日で計画していた夏のキャンプから1泊2日の冬のキャンプに変更になったため、体験活動の機会を提供することが中心となったプログラムとなった。集団で協力し課題を解決したり、基本的な生活習慣の確立を目指したプログラムを取り入れたりするなどの工夫が必要である。
 - 事前に参加者の施設を訪れ触れ合いやかかわりを持つことで、参加者個人に深くかかわった事業展開や個に応じた支援、また、プログラムの工夫ができたのではないかと考える。